

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 27年 08月 7日

学籍番号	14N0003	学系	健康科学・スポーツ医科学系
氏名	小林 亮太		
学会等名 (正式名称)	EUROPEAN COLLEGE of SPORT SCIENCE (ECSS)		
開催日程	2015年 6月 24日 ~ 2015年 6月 27日		
開催場所 (国・都市名)	スウェーデン・マルメ		
発表演題名	POSTPRANDIAL ARTERIAL STIFFNESS IN EXERCISE-TRAINED VERSUS UNTRAINED MEN		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 学会全体として、運動と代謝関連の研究内容が多いことが印象に残りました。例えば、高脂肪や高血糖食後の代謝異常を運動で抑制・改善するなど、私の研究内容と近いものが多く、今後行う研究の参考となりました。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> The Effect of Endurance Exercise and Resistance Exercise on Postprandial Lipemia 【背景】急性有酸素性運動は、高脂肪食後の高脂質血症を抑制する効果があるが、高脂肪食後の高脂質血症に対する高脂肪食前に行う急性レジスタンス運動の効果は明らかになっていない。【方法】若い運動鍛錬男性 6 名を対象に、高脂肪食 (OFTT) の摂取前日に急性有酸素性運動試行 [50%最大酸素摂取量 (VO_{2max})、歩行、60 分間]、急性レジスタンス運動試行 (10 種目、10-12RM、各 2 セット、60 分間)、コントロール試行 (安静) と 1 人 3 試行をランダムに週間隔で実施した。血中トリグリセリド濃度は高脂肪食の摂取前後に測定した。【結果】高脂肪食後に伴う血中トリグリセリド濃度の血中濃度曲線下面積 (AUC) は、コントロール試行と比較して急性レジスタンス運動試行で有意な差はなかったが、急性有酸素性運動試行で低値を示した。【結論】急性レジスタンス運動は高脂肪食後の高脂質血症を抑制できない可能性が示唆された。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> 本研究では、ブドウ糖摂取後の下肢動脈スティフネス (動脈の硬化度) の変化は、若い一般男性と比較して持久系の運動鍛錬男性で低値を示しました。このメカニズムとして、下肢動脈スティフネスは、反射波の影響を受けることから AI (反射波の指標) が関与している可能性があるかとコメントを頂きました。今後はメカニズムの解明も含めて研究に励んでいきたいと考えております。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後 2 週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。